多文化共生ワークショップ　開催報告

資料１

１　概要

⑴　日時

令和５年９月２１日（土）午後２時から午後５時

⑵　場所

長久手市公民館　研修室

⑶　対象者

どなたでも参加可

⑷　参加者数

２３名　（関係者含む）

⑸　当日の流れ

時間	内容
14：00	開催　あいさつ
14：05～	長久手市の現状と第二次長久手市多文化共生プラン策定について
14：15～	１部　トークセッション ゲストに多文化ソーシャルワーカーの神田すみれ氏及び市内在住外国人市民のサチタラ パティラナ氏、ハロッド ジョージ氏をお招きし、長久手市での暮らしについてお話しを伺った。参加者は第２部のヒントとして「気づきメモ」を記入した。 テーマ： 子育て（日本との違い、子どもとの会話で使う言語）、防災（訓練への参加、備え、意識）、ゴミの分別、日本語教室、長久手市にあると良いこと、など
15：25～	２部　ワークショップ グループに分かれ、１部の感想や気づきの共有を行い、長久手市で日本人と外国人が一緒にできること等を話し合った。
17：00	終了

２　ワークショップで出た意見

⑴　子育て

・日本と外国の子育ての当たり前は違う。そこに気づき寄り添うことが大切。
・翻訳しやすい媒体での情報提供。コピーして貼り付けられる形式であることや、文書の概要が記載されると理解しやすい。
・母語の継承のための学習を家庭だけでなく他者とも協力できると良い。

⑵　日本語教育の場

・日本語を集中的に習得できる場があると良い。
・学校内で、子ども同士や親同士が分かり合える機会があると良い。
・日本語を学びたいと思ってもらうために必要なことを考える。
・フランスには、週２回隣のまちの学校にフランス語が分からない国の子どもが通える教室があった。
・日本語教室から日本人も外国人も友達の輪が広がると良い。

（裏面へ）

⑶　地域の活動・行事

・ちょっと人の役に立ちたい人は国籍関わらずいると思うので、そういう人が登録できる制度があると良い。
・長久手市の多文化共生自慢大会ができるようになり、誰もが気軽に声をかけ合えるまちになると良い。
・長久手の第二公用語を英語とする。

⑷　防災・災害時の取組み

・やさしい日本語は話し言葉なので、書き言葉は翻訳できる綺麗な言葉を使うべき。
・ハザードマップは配布されても興味がないと見ない。実際に避難所までの道を歩いたり、学校に宿泊する機会があると実体験になる。
・いつの段階で避難するのか等ルールが分かりにくい。
・何が大事なのか理由が分からないと防災訓練など参加できない。情報発信としてアプリやチラシをうまく活用することが必要。
・日本人も一緒に学ぶ、体験する機会。

⑸　その他

・翻訳機を使いやすい雰囲気になると良い。日本人が多い場では外国人が翻訳機を使いにくい雰囲気がある。外国語に対する壁を崩して、もっと気軽に会話して良い環境にしたい。
・入国から１か月の間に文化やルール（犯罪など）を教えてもらえることや親切にしてもらえることが大切。転入時の手続きのタイミングで、当たり前が異なることを前提にした理解できる説明が必要。忙しい人のためにオンラインで視聴できる動画も良い。
・ここに来れば何とかしてもらえるワンストップの窓口があると良い。入口づくりをすると相談件数が増加するので受け皿を整えることも大切。
・日本語教室で蓄積した外国人のニーズと解決法を外国人にもリリースする。
・母国の文化を伝えてもらう機会や外国人がやりたいと思っていることをイベントに取り入れる。

３　当日の様子

第１部　トークセッションの様子

第２部　ワークショップの様子